アイリッシュ・ナショナル・スタッドについて
― アイルランドにおける生産技術者の養成事業 ―

日本中央競馬会　日高育成牧場　専門役　冨成　雅尚

「馬づくりは人づくり」、この言葉どおり、「強い馬づくり」のためには、優秀なホースマンの育成は欠かせません。

わが国においては、BTCの育成調教技術者養成研修、JBBAの生産育成技術者研修などの人材養成事業が存在しますが、欧米各国においても様々な機関で実施されており、ダーレー・フライング・スタートや米国のケンタッキー・イクワイン・マネージメント・インターンシップなどは世界的にもよく知られているところです。

本稿においては、世界有数の馬産国アイルランドで40年以上にわたって、多くのホースマンを養成しているアイリッシュ・ナショナル・スタッド（以下INS）のブリーディング・コースについて紹介します。海外の馬産に興味がある方、もしくは、海外の牧場での勤務経験を希望されている方の参考となれば幸いです。

アイリッシュ・ナショナル・スタッドとは

INSは今から半世紀以上前の1946年に、「アイルランドの馬産業の促進」を目的として設立された歴史ある国営牧場です。牧場の歴史は100年前に遡り（当時は個人所有）、往年の大種牡馬ブランドフォードを筆頭に、ミノル（2000ギニー、ダービー）、サンチャリオット（1000ギニー、オークス、セントレジャー）、最近ではデザートキング（ナショナルステークス、アイリッシュダービー）やシーザスターズなど多くの名馬が生産されてきました。

また、スタリオン・スタッドとして、ヨーロッパのトップサイアーであるインヴィンシブルスピリットを擁していることでも知られています（図1）。

INSは生産牧場としての役割のみならず、ブリーディング・コースとよばれる競走馬産業への人材供給を目的とした事業を行っています。1971年に設立され、40年以上の歴史をもつこのコースは、これまで800人以上の卒業生を世界中に輩出しており、彼らは各国の生産牧場、育成牧場、競走馬厩舎、競馬関係機関、セリ会社あるいはマスコミなどで活躍しています。このコースを卒業することで、基礎的な生産技術を習得できるだけでなく、INSが世界各国に張り巡らす人材ネットワークを活用して、各国の牧場や厩舎、あるいは競馬関係機関で働くチャンスを得ることもできます。

図1　欧州トップサイアーのインヴィンシブルスピリット

ブリーディング・コースの概要

このコースでは、繁殖シーズン（1～7月）の約半年間にわたって、スタッドマネージャーすなわち生産牧場の管理責任者になるために必要な、生産に関する基礎的な知識および技術を修得することができます。カリキュラムは、実習、講義および見学研修などで構成されており、定期的に行われるレポート提出、試験（筆記、口頭、実技）そして普段の実習での業務態度などを通して、一定の評価を得ることにより卒業資格を取得することができます。

ブリーディング・コースにおける実習

実習は、繁殖シーズンにおける繁殖牝馬、子馬および種牡馬の管理、そして種付けおよび出産などの実務を行います。生徒は、「妊娠馬」「空胎馬」「種牡馬」「1歳馬」が所属する各厩舎に振り分けられ、専任スタッフとともにそれぞれの

業務につきます。

妊娠馬の厩舎では、分娩時の対応はもちろん、目視による継続的な分娩監視の重要性を学ぶことができました。INSでは、自己所有牝馬のみならず、多くの預託馬が繋養されていることもあり、分娩時の事故防止は徹底されていました。このため、分娩する可能性が高い夜間はもちろんのこと、日中の放牧時も含めた15分おきの監視が確実に実施されています（図2）。アイルランドの他の牧場で一般的に使用されているビデオモニターや分娩アラーム（陰唇に装着するタイプ）などは、INSでは利用されていませんでした。「いつ産まれるかは誰にも分からない、しかし、いつか必ず分娩に至る」、このことを念頭においた24時間体制の直接的な監視は、労力と手間を要するものの、リスクを回避する最適な手法であると感じることができました。

また、試情や種付けなどの生産牧場の基礎的な繁殖技術については、毎日実施される講義と併せて体系的に習得できることに加え、前回の記事（子馬の引き方）で触れたような子馬の取扱い方法など、アイルランド人が長い年月をかけて培ってきた馬への接し方、馬と人との距離感などを肌で感じることもできます（図3・4）。

図2　目視による24時間の分娩監視の徹底

図3　試情（左）や種付け（右）などの繁殖技術の習得

図4　子馬の取扱い方法の体得

ブリーディング・コースにおける講義

1日1時間の講義は、獣医学、装蹄学、栄養学、土壌学などの馬産の基礎的な分野に加え、種牡馬事業やセリ市場など、競馬産業に関する内容も数多く含まれています（表1）。講師はINSの場長を含むスタッフ、担当獣医師および装蹄師に加え、大学、研究所、飼料会社、エージェント、セリ主催者、調教師などアイルランドを代表する競馬関係者が担当します（図5）。なかには、現在わが国でも有名になったエクイノーム社のエミリン・ヒル博士による「スピード遺伝子」の講義や、欧州を代表する大手コンサイナーによる実馬を用いた馬体のコンフォメーションの見方に関する実技などが行われ、多くの生徒の関心を集めていました（図6）。

講義はすべて英語で行われているため、英語を母国語としない生徒にとっては、ハードルが若干高いかもしれませんが、世界的に有名な科学者や欧州の競馬産業の第一人者による講義を聴くことは、またとない貴重な機会になります。

図5　装蹄学の講義

見学研修

見学研修においては、セリ市場、馬診療所、競走馬厩舎、

図6　大手コンサイナーによる馬の見方の実習

表１　主な講義内容

カテゴリ	講義内容
繁殖学	雌性生殖器の解剖学
	牝馬の繁殖生理学
	あて馬
	妊娠生理
	流産・双胎
	流産を引き起こす感染症
	馬ヘルペスウイルス
	子宮における感染症
	キャスリック法
	出産時の対応
	新生子馬の取り扱い
	乳母と孤児
	種付け
	精液採取法
	種付け頭数が種牡馬の生殖機能に及ぼす影響
獣医学（繁殖学以外）	運動器の解剖・疾患
	運動生理学
	循環器の解剖・生理
	呼吸器の解剖学・生理学・疾患
	消化器の解剖学・生理学・疾患
	購買・売却時の馬体検査
	寄生虫学
	外傷治療
	歯科学
	馬の感染症
	カビとマイコトキシン
	スピード遺伝子
馬学	馬の取り扱い方
	馬の特徴
	馬の見方
	コンフォメーション
	セリにおける血統表の見方
	サラブレッドの血統および配合方法
	種牡馬の経済学
	サイアーランキングの見方
	セリ開催業務
	競馬開催
	競走馬保険
	アイルランドの競馬産業
	ポリトラック馬場
	競走馬の血統登録
	血統表の見方
	セリ訓致
	栄養学
	装蹄学
	放牧地の管理
その他	アイルランド産馬の販売促進
	ダーレー・フライング・スタート
	エクイソフトを用いた牧場の事務管理
	腰痛を防ぐ荷物の運び方

育成業者（コンサイナー）などを訪問します。これらの中には、エイダン・オブライエンやジム・ボルジャーなどのトップ・トレーナーの厩舎も含まれています。

他の生産牧場の見学も極めて有意義なものであり、クールモア・スタッドやキルダンガン・スタッドなどの大手牧場においては、種牡馬事業を中心とした、豊富な資金と人材によるスケールメリットを生かした牧場経営を学ぶことができる一方で、バリーマコール・スタッド（1997年ジャパンカップ優勝馬ピルサドスキー、 2013年メルボルンカップ優勝馬フィオレンテ；図7）など、小規模ながらも長年にわたって活躍馬を輩出し続けている牧場においては、血統的資質にこだわり、繁殖牝馬の頭数を厳選した経営手法を学ぶことができました。また、多くの牧場においては、1年を通して緑の草が絶えず、カルシウムが豊富な土壌を有するアイルランドの気候風土を生かした放牧管理を中心に馬を育てており、これが世界に冠たるアイルランド産馬の原点であることを感じざるを得ませんでした（図8）。

さらに、これらの見学研修は、単なる知識修得だけではなく、アイルランドの競馬産業に携わる関係者と各国生徒との「顔合わせ」を兼ねており、アイルランドの競馬産業における

図７　血統的資質にこだわった小規模経営のバリーマコール・スタッド

図８　緑の草が絶えないアイルランドの放牧地（２月）

図９　昼食会など懇親の場が設定
ジム・ボルジャー調教師（左写真右）。バリーリンチ・スタッドのジョン・オコーナー場長（右写真右）。

ネットワークの形成に寄与しています。このため、多くの見学施設においては、リラックスした雰囲気の中で、関係者との昼食会などの懇親を深める場が設けられていました（図9）。また、見学研修をきっかけに、INS卒業後にこれらの牧場や厩舎に就職もしくは研修することもできるため、生徒にとっては極めて有意義な機会になります。

研修生の顔ぶれ

受講資格に年齢の上限はありませんが、 20代前半の生徒が多くを占めています。彼らの学歴は高卒、大卒、大学在籍中など様々ですが、ほぼ全員が生産牧場あるいは競走馬厩舎での勤務経験を有しています。また、すでに自国以外の牧場で就労経験している生徒も数多く在籍していました。生徒によっては、1～7月はヨーロッパや北米、8～12月はオセアニアといったように、同一年に2度にわたる繁殖シーズンを経験することでキャリアアップを重ねる者もいました。このような世界各国の研修生が、半年間にわたる寮生活をとおして寝食をともにする、まさに「同じ釜の飯を食う」ことにより、世界中にネットワークを拡げることができるのです（図10）。

図10　各国から集う研修生

このように、INSの教育システムは、自国のみならず、他国の人材も養成していることが特徴的です。国営牧場という性質上、自国の若者のみを対象とするシステムの方が妥当と思われますが、世界中から生徒を集め、卒業後に彼らが母国において競馬産業の職に就くことにより、結果として世界各国にコネクションを拡大することを可能にしています。すなわち、卒業生に対してアイルランドの「競馬大使」としての役割を期待しているのです。

他国の教育システム

INSと同様の人材養成機関は他国にも存在します。主なものとしては、ナショナル・スタッド（英国）、ケンタッキー・イクワイン・マネージメント・インターンシップ（米国）、ダーレー・フライング・スタート（愛国、英国、豪州、米国、ドバイ）などがあげられます。INSの生徒の何名かは、これらのコースも受講することにより、世界各国の馬産を経験するとともに人脈の輪を広げています。なお、表2にこれらの機関の公式サイトを掲載しましたので、ご参照ください。

表2　各機関の公式サイト

アイリッシュ・ナショナル・スタッド（愛国）
Irish National Stud
（http://irishnationalstud.ie/education/4/breeding-course/）

ケンタッキー・イクワイン・マネージメント・インターンシップ（米国）
Kentucky Equine Management Internship
（http://www.kemi.org/）

ナショナル・スタッド（英国）
The National Stud
（http://www.nationalstud.co.uk/）

ダーレー・フライング・スタート
Darley Flying Start
（http://www.darleyflyingstart.com/）

おわりに

2013年のキングジョージⅣ&クイーンエリザベスS優勝のドイツ調教馬ノヴェリスト、2014年の香港ダービー優勝の香港調教馬デザインズオンロームなど、他国で調教されたアイルランド産馬が、各国の大レースに優勝するケースは珍しくなく、毎年のようにロンジン・ワールド・ベストホース・ランキング上位に名を連ねています。また、 2012年におけるアイルランドの競走馬輸出頭数は3,479頭、仕向国は欧州や北米はもとより、アジア、南米およびアフリカを含めた世界36カ国にのぼり、「馬を売る国」として質・量ともに世界の競馬産業をリードしています。

世界中にネットワークを形成しているINSの卒業生は、「馬を売る国」アイルランドにとって極めて貴重な財産であり、国をあげたこの事業を40年以上継続することによって、世界有数の馬産国としての地位を築いています。

毎年1月から始まるINSブリーディング・コースの募集人員は20名、応募資格は「18歳以上で健康」「一定の英語力（IELTS academic test 5以上）を有している」「牧場などでの勤務経験があり、馬の取扱いに慣れている」ことです。ご興味のある方は是非受講してみてはいかがでしょうか。応募締め切りなどの詳細は、アイリッシュ・ナショナル・スタッド・ブリーディング・コースの公式サイト（表2）をご確認ください。